

幼児のボール遊びに関する研究 ⑤

— ホルディングを基礎としたボール遊び —

岡 本 卓 夫

前号④ではドリブルを基礎としたボール遊びについて報告したが、今回はホルディング（持つこと）を基礎にしたボール遊びについて報告します。

この遊びはボールのハンドリング（操作）が一番簡単で、幼稚園初期において実施できるものが相当あり、男女別の技術的ハンドキャップも少なく、ボールの性質をあまり考えなくてもできる。この遊びにおける幼児たちの経験内容としては、

(一) ボールにはいろいろの形や、大小数多くあることを知るようになる。

(二) いろいろの色彩のものがあることを知るようになる。

(三) ゴム製・皮製・布製・ビニール製など、いろいろのものからつくられていることを知るようになる。

(四) 硬いもの軟かいものがあることを知るようになる。

(五) 重いもの、軽いものがあることを知るようになる。

以上がここのボール遊びから得る主なる経験内容になるであろう。つきにこれらの主なる遊びについて説明することにする。

(一) ボール送り

○人数 一グループに六人〜一〇人

○準備 一グループにボール一個

○遊びの目標

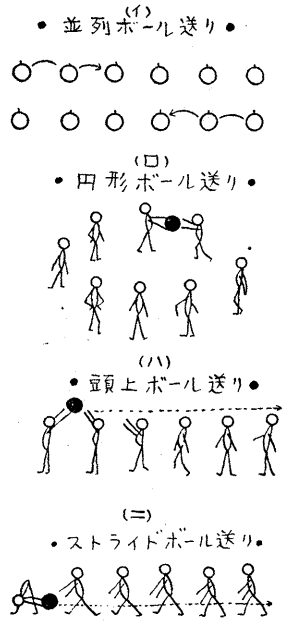
グループのものが円をつくったり、列をつくったりして、腰の高さの位置や頭上、股の下などを通して互いにボールを送り、リズムにあわせて遊んだり、グループで競走したりして遊ぶ。

○ルール

1. 決められた方法で手渡す。
2. ボールは相手がしっかり握ってからはなす。
3. 落したらすぐ拾って手渡す。
4. 必ず隣りの人に渡す。とばさないこと。

○留意点

1. いろいろなボールを使用してみる。
2. 隣り同志の両手が届く範囲内の間隔をとらせること。
3. 競走形式をとる場合は、その先にリズム的な遊びをやらせ、十分になれてからすること。
4. まわる方向を一定にすること。



5. リレー形式のときに、次第に前方へ列が出る傾向が強いので注意すること。

6. 股下でボールを送るときには、前後が接近し過ぎるので注意すること。この遊びのときは小さなボールが良い。

(二) 雷遊び

○人数 八人〜一〇人

○準備 一グループにボール一個

○遊びの目標

各プレイヤーは手をつなぎ、大きな円をつくり、その場にすわる。リーダーによって一人の「雷」が選ばれ、円の中央に出る。「雷」になったプレイヤーは、顔を伏せ目を閉じて、ゴロゴロという。その間、円周の各プレイヤーはボールを右(左)へまわしていく。「雷」の「ドン」といったときにボールを持っていたものがつぎの「雷」になるという遊び。

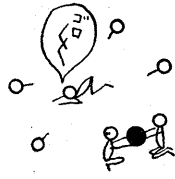
○ルール

1. 必ず隣りのプレイヤーに送る。
2. 渡されたら必ず受け取らねばならない。
3. 「ドン」のときに二人が同時にボールを持っているときは、渡されているプレイヤーがつぎの「雷」になる。

○留意点

1. ゴロゴロのテンポを早くしたり遅くしたりさせるようにする。

2. 立位、坐居のいずれでもできる。
3. 坐居のときはサークル(円)を小さくする。
4. 「ドン」が当たったプレイヤーに何かものまねをさせてから「雷」にならせるのもおもしろい。



(三) 宝島

○人数 八人〜一〇人

○準備 一グループにボール一個。直径一米のセンターサークル

(一宝島)

○遊びの目標

ガード(番人)になったプレイヤーはセンターサークルの近くに位置し、宝物をとられないように見張りをする。その周囲の自領に位置したプレイヤーは、ガードにつかまらないようにして宝物を奪って帰るとい遊び。

○ルール

1. 「始め」の合図があるまで、ガードはセンターサークルに、他のプレイヤーは自領を出てはいけない。

2. 合図があれば周囲のプレイヤーはいつでも自領をはなれて、宝物を取りに行くことができる。

3. プレイヤーが自領からはなれると、いつでもガードはそのプレイヤーをつかまえることができる。

4. もしプレイヤーがガードにつかまらないで、無事に自領に帰るとつぎのゲームのガードになる。

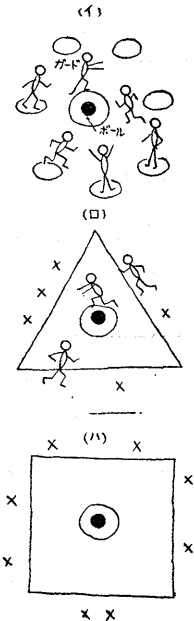
5. ガーディングにおいて、ガードはプレイヤーが宝物を取るまで、センターサークルを踏んではいけない。

6. プレイヤーが自領外でつかまったときは、いつでもそのゲーム中自領にしゃがんでいなければならない。

○留意点

1. 捕えるかわりに手で触れるだけでよい。

2. 三角形、正方形など、いろいろの形に遊び場を区画してやるのも良い。



(四) ボール鬼

○人数 六人〜八人のグループ

○準備 一グループにボール一個。15×15の遊び場。

○遊びの目標

ボールを持ったプレイヤーは鬼につかまらないよう場内を逃げ、鬼になったプレイヤーはボールを持っているプレイヤーを追っかけつけてつかまえる遊び。

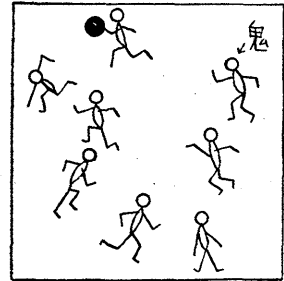
○ルール

1. プレイヤーは場外に出てはいけない。
2. ボールを持ったプレイヤーは、鬼につかまりそうになったら、ボールを他のプレイヤーに渡すことができる。
3. ボールを差し出されると必ず受け取らねばならない。
4. ボールを持っているときに鬼につかまったらつぎの鬼になる。
5. 鬼になったプレイヤーは場外から始める。

○留意点

1. ボールは小さいが良い。(テニスボールくらい)
2. 鬼には何かの印をつけるか、何かを持たす。
3. さわるだけでも良い。
4. 同じ者ばかりで遊ばさないようにする。
5. 幼稚園後期になると、ボールや鬼を倍にしてもおもしろい。
6. 男女いっしょにすると、片方ばかりになるときがあるので注意すること。

10~15m



(五) ビンボンボール置き

○人数 一グループ八人〜一〇人

○準備 一グループにボール一個

○遊びの目標

各プレイヤーは手をつなぎ、サークルをつくり、その位置に小円を書き両手を後に差し出して立ち、鬼に選ばれた一人のプレイヤーはビンボンボールを持ってその外側を走ってまわり、だれかの手の上にボールを渡す。それと同時に渡したプレイヤーは円をまわって逃げ、渡されたプレイヤーは彼が自分の位置に帰りつくまでに追っかけて、つかまえるという遊び。

○ルール

1. つかまらないで小円に帰って来たら、ボールを持っているプレイヤーがつぎの鬼(ボールを置く人)になる。
2. ボールを持たないでつかまえることはできない。

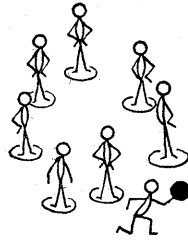
3. 両者ともサークル上のプレイヤーを横切ってはいけない。

○留意点

1. 「お手てを上手に出している人にあげましょうね」というように指導する。

2. さわるだけでもよい。

3. 同じ者ばかりに置かせないようにする。



(六) ボール追い

○人数 八人〜一〇人を一グループ

○準備 一グループにボール(大)一つ

○遊びの目標

各プレイヤーは手をつなぎ円をつくる。円周上のプレイヤーはボールをつぎつぎとまわしていき、鬼に選ばれた一人のプレイヤーはそれを追っかけてボールを持ったプレイヤーにさわる遊び。

○ルール

1. ボールは必ず、すぐ隣りの人に渡さねばならない。

2. 渡されたプレイヤーは、必ずそれを受けねばならない。

3. 投げ渡すことはできない。

4. 鬼になったものは、円周上のプレイヤーを横切っていくことはできない。

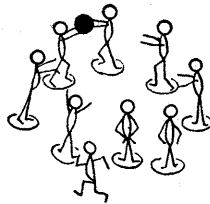
○留意点

1. ボールは軽くて大きいのが良い。

2. 円周上のプレイヤーの位置に、小円をかいてやるとよい。

3. 遊びの始まる前は、鬼とボールは丁度反対の位置にして置く。

4. 二回もまわってつかまらないときは鬼を交代させること。



以上ホルディングを基礎としたボール遊びの主なるものを報告したが、つぎの回には、スローイング(投げること)キャッチング(捕えること)を基礎としたボール遊びについて報告することにしませう。

(筆者は徳島大学学芸学部体育研究室員)